

新年のご挨拶

触媒学会会長 濱田秀昭

明けましておめでとうございます。

2015 年を迎えるにあたり、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

触媒学会は、本年で設立 57 年目となります。昨年は、春の第 113 回触媒討論会を豊橋で、秋の第 114 回触媒討論会を広島で開催したほか、4 年ごとに開催される主要行事である国際会議 TOCAT を京都で開催し、千名近い参加者数を得て成功裏に終了しました。これも会員の皆様のご協力のおかげと深く感謝しております。

触媒学会の個人会員数はこのところ同じレベルで推移していますが、団体会員が減少傾向にあり、今後、企業の会員に対してより魅力的な学会にしていく必要があると考えています。そのため、本年は、産業界の貢献やアカデミアと産業界の協力をさらに活発にするための活動を予定しています。例えば、3 月に成蹊大学で開催される第 115 回触媒討論会において、「水素社会への架け橋」、及び「化学原料事情の Climate Change」の二つのテーマを設けた特別シンポジウムを開催します。また、新年早々の 1 月下旬には、「これからの社会に求められる触媒技術、現状と今後の展望」と題する第 50 回記念触媒フォーラムを佐島マリナーで行います。これらの行事では、触媒の各分野でご活躍の第一線の方々からのまとまったご講演がありますので、是非ご参加いただければ幸いです。

触媒の主要な用途は化学品の製造ですが、最近、米国を起点とするシェールガス革命や中国の石炭化学の進展によって我が国の化学工業が大きな影響を受けることとなりました。触媒はまた、自動車触媒など環境保全用としても多く使われていますが、環境規制は世界的にますます強化されつつあります。これらの社会情勢に対応するため、触媒技術の高度化や新たな触媒技術の開発が求められています。

一方、近年、大気中温室効果ガス濃度の上昇による気候変動が急速に進み、生物多様性が失われ人類の生存にも大きな影響を与えることが懸念されるなど、人類はこれまでに経験したことのない地球環境問題に直面しています。触媒技術は、これらの問題を解決するためのキーテクノロジーとして今後ますますの進展が期待されています。触媒学会としても、社会が求める諸問題の解決に少しでも貢献し、本会のプレゼンスの向上を図りたいと考えておりますので、会員の皆様の引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、本年が触媒学会にとってさらに発展を遂げる年になりますよう、また、皆様にとって本年が良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。